



新任職員研修の感想

◎「聞こえない」という、人とは違う理由で不良と扱われることは、とても理不尽だと感じる。社会的マイノリティの尊重、平等が叫ばれる昨今、誰もが当たり前のことを当たり前に認め合えるような社会を作っていくよう、少しでも自分の力が役に立てるようになっていきたい。

福祉に携わる者として、過去を見る力の大切さを改めて学んだ。また「介護の仕事をした」と多くの人に思ってもらえるようにするには、多くのことを発信していく必要がある」との話に考えさせられる。自分には何ができるのか、少し考えてみたいと思う。

(生活援助係 岡本洗一)

全員合格！ 全国手話検定試験

淡路ふくろうの郷では、今年度も職員が手話技術向上のために全国手話検定試験を受験し、なんと受験した7名全員が合格しました(3級3名、4級4名)。合格者の声をご紹介します。

◎昨年の手話検定は、初めての経験だったので、とても緊張してしまい、不合格でしたが、どうしても入居者とのコミュニケーションを大切にしたいと思い、今年も再挑戦してみました。今年は、実務者研修の自宅学習との兼ね合いもあり、あまり勉強会への参加ができず、とても不安でした。やはり、手話面接は一度経験しているとはいえ、とても緊張します。皆様からのアドバイスをいただいて、今回の面接はなるべく笑顔で表現しようと思ひ、なんとか合格に至りました。今回の合格により、モチベーションも向上し、また次のステップアップを図りたいと思います。合格した時は本当にほっとしました。(廣地美紀)

人の職員が参加(うち前年度中途採用者7人)しました。研修では、狭間施設長による社会福祉とはく対人援助についてや、仲井理事による聴覚障害について、また記録や報告のつけ方や感染対策について

◎タイトルに「手話はいのち」と赤文字で表現されていて、その通りだなと思いました。普段私は自分の気持ち等を声に出して伝える事ができるが、聴覚障害を持たれている方々にとって手話が自分の思いや相手の気持ちを知る手段。

お話の中の「聞こえる人には手話は勉強だが、聞こえない人には“いのち”」が印象に残っています。(生活援助係 須藤真奈美)

令和三年度 新任職員辞令交付式

4月1、2日に新任職員辞令交付式と職員研修が淡路ふくろうの郷・地域交流室にて行われ、10人の職員が参加(うち前年度中途採用者7人)しました。

業務に係る重要な内容に、新任職員たちは、真剣な眼差しで受講していました。

日々の変化する社会様相に柔軟に対応する力が試される中、法人に吹く新しい風に期待が高まります。

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

長田区聴障福祉協会から、焼き肉・お好み焼きなど業務用鉄板一式が寄付されました。神戸長田ふくろうの郷は狭くて保管できず、淡路の中川原ふれあいセンターでお預かり中。長田ふくろうの郷で活躍してくれるよう頑張りたいです。

神戸平野ふくろうの樹職員募集

神戸平野ふくろうの樹では、内装工事が進み、入っていただく利用者も決定し、職員配置の準備を進めています。利用者と一緒に食事を作ったり、日常的なお世話をしてくださる方を募集しています。

勤務地:神戸市兵庫区石井町
勤務時間:16:30~翌朝9:30
(休憩・仮眠あり)
週2回程度勤務できる方
○お問い合わせ
神戸長田ふくろうの郷
竹原 哲章
TEL078-798-7940
FAX078-798-7941



ふくろう物語 大靱親永様

大靱親永様は昭和6年10月20日
生まれ89歳。珍しい名前は、ご親戚
に神主さんがおられ、命名してもら
ったからだそうです。

両親と4人兄妹でしたが、次兄が
養子に入った後に、長兄が戦死した
ため婿養子ももらい、両親、息子・
娘の6人で暮らしていました。生ま
れも育ちも淡路市中田で、幼い頃よ
り農業のお手伝いなどされておられ
ました。朝は早い時には5時ごろに
起き、母親と一緒に朝食の準備をし、
夫は毎朝牛の乳を絞り、絞りがたてを
父親に飲んでもらったり、取引先に
引き渡し、朝食後には鐵工所に勤め



られていました。大靱さん自身も子
育てや家事、菊、すいか、米、野菜や
牛の世話など色々する事があり「忙
しかったよー」と仰られていました
が、その顔は微笑んでいました。忙し
くもあり充実した日々だったのでほ
ないかと感じられました。

メンメン 畜産一筋

娘様のお話によると、口数が少な
くいつもニコニコと、怒られた記憶
がないぐらい温和な性格。

一番印象深いエピソードは平成7
年に阪神淡路大震災で被災し自宅が
全壊。その後、息子様が再建され、畜
産農家として黒牛を育て、津名郡の
大会で上位入賞し、県大会にも何度
も出場して優良牛として認められ、
自宅の床の間にはトロフィーや盾が
たくさんあるそうです。

10年程前に夫が他界され、息子様
も入院され、本人の持病が悪化する
などし、老人保健施設に入所されて
いましたが、終の棲家として淡路ふ
くろうの郷を希望され、令和2年の
4月29日に入居されました。



▲ご主人の実さんと婚礼写真

いた気持ち忘れず支援を考えてい
きたいと思います。

娘様がお孫やひ孫様を連れていら
っしゃる事があり、少しですがお話
しさせていただく機会がありました
が、皆さん親永さんをととても大切
にされている印象が何えました。お孫
様からは「ネコのばあば」と呼ばれ
ており、犬や猫が好きで飼われて犬
の名前は「ぼち」、猫の名前は「み
こ」だったそうです。お部屋にはお
孫様などからプレゼントされた人形
などが飾ってあります。

大靱さんはとにかく穏やかで、お
話している時はよく笑顔が見られ
ます。私自身も接しているといつも
より優しい自分がいるように感じら
れる事がありました。親永さんの人
柄に引張られていたのだと気づか
されました。これからもよろしくお
願いします。(花木ユニット
生活援助員 木下 卓幸)

生きた時代・社会情勢

- 昭和6年 満州事変
- 昭和12年 日中戦争
- 昭和20年 原爆投下
- 昭和21年 憲法公布
- 昭和29年 ビキニ沖水爆・経済高度成長期
- 平成7年 阪神淡路大震災
- 広島・長崎 敗戦

3月24日(水)、「適正な介護保険事業運営の確保等を目的とした集団指導及び令和3年4月から適用される介護報酬改定説明会」を今回は新型コロナウイルス感染症防止を徹底するため、WEBでのライブ配信となりました。例年は、代表者他少数での参加でしたが、今回は、プロジェクトに つなぎ、大画面を担当部署の職員が一堂に説明を受けることができました。

「感染症や災害への対応力強化」では、感染症や災害が発生した場合であっても必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築することを3年間の経過措置期間において義務付けること。

介護報酬改定率は、+0.7%となり、厚労省よりさらに詳しい改定が示されました。その中で、「科学的介護情報システム(LIFE)」という新たなPDCAサイクルの推進及びサービスの質の向上を図る

～「科学的介護情報システム(LIFE)」を活用し、サービスの質の向上を目指す～

令和3年度介護報酬改定説明会及び兵庫県集団指導

取り組みが提案されました。

入居者の状態に応じたケア計画等の作成した情報をLIFEに提出し、評価を受け、さらに計画の見直し改善を行うことで「科学的介護推進体制加算」を頂くことができます。他にもLIFEを活用し、情報も提供し、評価を受けることで、ADL維持等加算、個別機能訓練加算、栄養マネジメント加算、口腔衛生管理加算、褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算棟などが加算されることとなります。

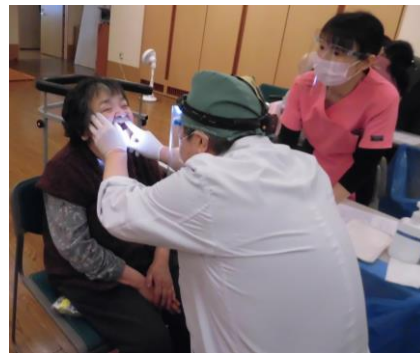
コロナ禍の集団指導はオンラインを活用して行われ、新たな介護報酬改定は、LIFEを活用することで介護報酬加算がされます。3月25日、LIFEシステムへの新規申請を行い、準備を進めていきます。

(淡路ふくろうの郷)

施設長 狭間 孝



お口から健康になろう



▲奥井医師より口腔内チェック

3月10日(水)、当施設の協力歯科医である奥井歯科より奥井寛三医師、奥井美枝医師、歯科衛生士3名、兵庫県健康増進課からも歯科衛生士1名が来所され、感染予防対策の下、施設にて全入居者対象の歯科検診を実施しました。

これまで、入居者の歯の状態に合わせて、その方にあった口腔ケアの方法や食事形態等、他職種と連携し試行錯誤しながら行ってきました。

なかには、口腔ケアを受け入れてもらえない入居者もあり、検診時にはどうなることかと心配しましたが、いざ診察となると医師の前では、にっこりと微笑み大きく口を開けられその間に医師より職員に対して効果的なブラッシング方法を教えていただく場面もありました。

今後は、定期的に奥井歯科より歯科衛生士が来所し、各ユニットをまわり一人ひとりに合った口腔ケア方法についてレクチャーを受ける予定です。効果的な口腔ケアの技術を取得して入居者の「オーラル・フレイル予防」に繋げていきたいです。

(健康看護係 土井素子)

ふくろう大学修了式

一年間の学びに敬意を込めて賞状を狭間施設長からお渡ししました。「私も貰えるの?」と笑顔で受け取られている方もおられました。

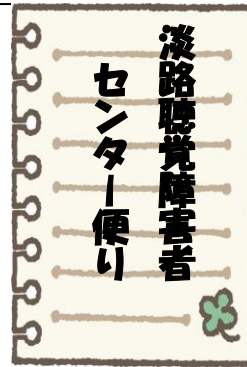
コロナのため先生方に来ていただくことができませんでしたが、演劇講座が増え楽しんでいただけたと思います。

来年度こそは、先生方に来ていただき、たくさん学んで貰えたらと思います。一年間ありがとうございました。

(ふくろう大学担当 小椋滝美)



▶表彰状を手に笑顔の夜久さん



洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階



▲遠隔手話通訳サービスについて説明する淡路市福祉課職員

島内3市では、以前より遠隔手話通訳サービスの準備を進めてきました。機材、部屋の準備等が整ったとのことで、洲本市3月14日(日)午前、淡路市同午後 3月21日(日)午後南あわじ市で行政主催の説明会、体験会が開催されました。

淡路島内3市で 遠隔手話通訳サービス説明会開催

三市合計で聴覚障害者33名登録手話通訳者9名、要約筆記者4名の参加がありました。遠隔通訳についての説明の後、病院内での医師役を行政の方が担当しスマホやタブレットを使って遠隔手話通訳の体験を行いました。

通訳者決定通知書のQRコードがエラー表示で読み取れず、スマホの設定をあらかじめ変更しておく必要がある機種があったり、スマホの使い方には慣れない方も多く、全員に体験していただくのに長時間を要しました。

課題が浮き彫りに

スマホを持たない高齢者には貸出用タブレットで体験していただきましたが、1回だけの練習では覚えきれませんでした。質疑応答では、「操作方法が分からない時は誰か手助けしてくれるのか」「病院の環境により映像がうまく映らない時はどうなる」「病院にいつでも貸し出せるように置いてあれば安心」など課題が浮き彫りになりました。行政の方も「半数以上の方がスムーズにつかえないことが分かった、医療機関にあらかじめ状況を話し、協力を要請しておく必要を感じました。また難聴の方への対応についても他の方法を検討する必要がある」など南あわじ市福祉課長さんからも意見がだされるなど、聞こえない方の状況を知り、新たに方法を模索していただくいい機会となりました。



▲真剣な顔つきで遠隔手話通訳を試す参加者と医師役の洲本市福祉課長

難聴者のための「楽々コミュニケーション」

3月21日(日)洲本市総合福祉会館で県事業の「楽々コミュニケーション」が開かれました。淡路中途失聴難聴者の会でボランティアで読話指導をされている方等も含めて8名が参加。県立聴覚障害者センターの言語聴覚士・岡恵子氏よりしりとりやビンゴゲームも交えながら、楽しく読話練習を行いました。

コロナ禍の開催でしたが、普段は外出を控えている、人と話がしたいので参加した等、読話学習と交流もかねてコミュニケーションを楽しんでいただくいい機会になりました。



社会生活教室 3/28(日)

コロナワクチン接種について

南あわじ市別館3階ホールで、南あわじ市在住の聴覚障害者対象にコロナワクチン接種の流れや注意点について南あわじ市市民福祉部健康課の職員さんから説明していただきました。

接種の時は手話通訳を付けてほしい



との要望も出され、あらかじめ接種日時を決めるなどで配慮していただけることになりました。

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
☎656-0002
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



桜ヶ丘の風景



「淡路島の春」の大作が完成しました!!



3月8日(月)、おのころの家の宇野さん、宮田さん、森さん、宮野さんが3か月かけて、着物生地で縫った4種の花とヨーヨーキルト、布玉、組み紐で作り上げた『淡路島の春』大作を完成して展示しました。

「教えてもらって段々と出来るようになってきた」「色々とアイデアが出るもんだなあと感じた」「週に3回じゃ(通所利用日)なかなか少なかった」「ひとつひとつ出来るようになって、何をしているのかわかっていった」など、これまでに振り返り感想をいただきました。

また、一緒に進めてくださったボランティアの出島さんからは「自分の母親と同じような年齢で、それを考えたらみなさん意欲的です」と嬉しく感じました。

縫い上げた作品の評価をもらうことで、今後の販売品への取り組みも一段と喜びや楽しみになってきた一面もあるようです。

(おのころの家 興津)

2021 年度 ふれあいセンターの事業方針

- ☆「食での交流」さくら食堂開設に向けた一歩としておのころ屋移転計画を進める。
- ☆地域活性化に向けた取り組みとわくわくフリマ等のイベントを企画・実施(新型コロナウイルス感染症の状況による)
- ☆運営面強化 おたがいさま中川原活動について各種団体と連携し運営面において一部協働で行えるようすすめる。

居宅介護支援事業所桜が丘

- ① 担当者数増を目指す
- ② 対象者が必要とする資源に対する情報提供・紹介
- ③ 研修に参加し自己研鑽に努める

デイサービスセンター桜が丘

- ① 1日の利用者数10名以上(稼働率70%)を目指す
- ② 各関係機関に対し定期的な広報活動を実施、取り組みを知ってもらう
- ③ 個別支援内容の検討、職員研修(介護技術・知識)の実施

淡路聴覚障害者相談支援事業所

- ① 担当件数を増やす
- ② モニタリング回数の見直し
- ③ 相談支援専門員の現任研修の受講

就労継続支援B型事業所おのころの家

- ① 1日の利用者数18名以上(稼働率90%)を目指す
- ② 工賃を確保する為、商品の開発と販路の拡大をすすめる
- ③ 地域住民の支援強化 障害者・高齢者が主体となって経営・運営する野菜等販売(神戸へ)安心して働ける場の創出を目指す
- ④ 焼き菓子・パン製造販売の強化

神戸長田ふくろうの杜

〒653-0836 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
 電話：078-798-7940
 FAX：078-798-7941

ふくろうの杜食堂の 常連さんのお話

ふくろうの杜食堂がオープンして、約4か月が経過して、常連さんも増えてきました。近くに住むご夫婦がいつもお話ししてくれることがあります。(右下に掲載)



↑ふくろうの杜食堂 賑わってありがたいです

「この食事は、ちょうどいい味付けでいつもおいしいです。お昼ご飯に迷った時に、ふくろうの杜食堂に食べに行こうかといつも夫婦で話しています。

メニューもポスティングしてくれるので、それを見て、いつ食べに行こうかと楽しみにしています。また、出前や持ち帰りもしているので、家族の分をお願いすることもできるので、助かっています。また、この店員さんは、ろうの方も多くて、私達も手話ができたらいいなと思っています。

ここに来ることで少しでも覚えられたらいいなと思います。今は、「おいしい」「ありがとう」の手話は覚えめました。」

みんなで食べると 笑みこぼれる

3月2日(火)に就労継続支援B型と生活介護でひなまつりの行事を行いました。利用者から「いちご大福が食べたい」という声が多かったので、いちご大福を作りました。楽しそうな表情であんこやいちごを包まれていました。出来上がったいちご大福を食べ、「甘いなあ」と幸せそうでした。

最近では近くの市営住宅の方や、会社や工場から来ていただいたりしている方やお店を経営している方やおは出られないから出前を毎日してほしいなど、お客様の声が増えてきました。配ですが、今後もおいしい食事を通して、地域の皆さんとのふれあいの場となれるように頑張りたいです。

毎日メニューの違う日替わり定食を楽しみにしていただいている方も増えてきて、12時には売切れしてしまうこともしばしば、今は、日替わりランチを増やして提供させていただきます。

また、季節に合わせた、甘いもご用意して、おいしいお菓子とコーヒーも楽しんでもらえようと考えています。

(ふくろうの杜食堂
竹原寛子)



↑手作りのお内裏様とお雛様

4月・5月 ふくろうの暮らし

- 4/20(火) 自治会総会
絵手紙・おのころパン販売
- 4/21(水) ふくろう喫茶
- 4/23(金) 料理講座・手話講座
- 4/30(金) 回想法
- 5/ 4(火) 演劇講座
- 5/ 5(水) 誕生会
- 5/10(月) ふくろう理髪店

神戸施設建設募金

目標 1 億円 !!

2021.3.31 現在 募金合計額 **95,329,861 円**

(プレート募金 324人)

目標1億円まで、あと **4,670,139 円**